



遠野市市史編さん
調査研究員
菊池秀男さん(上組町)

鍋倉城の歴史に詳しい菊池さんに聞きました ————— ● interview

広い城跡には、未知なるものがある

鍋倉城は、堀や門、御殿もあるしっかりとした城でした。江戸時代の最後まで城として使われたこと、その山城が今も残っていることはすごいことです。そんな城跡をぜひ歩いて楽しんでみてください。「これが城だ」という感覚を味わえると思います。私は、市民センターから物見山のふもとまでを含む鍋倉城を「巨大城郭」と考えています。なぜ大きいのかと言えば、伊達政宗擁

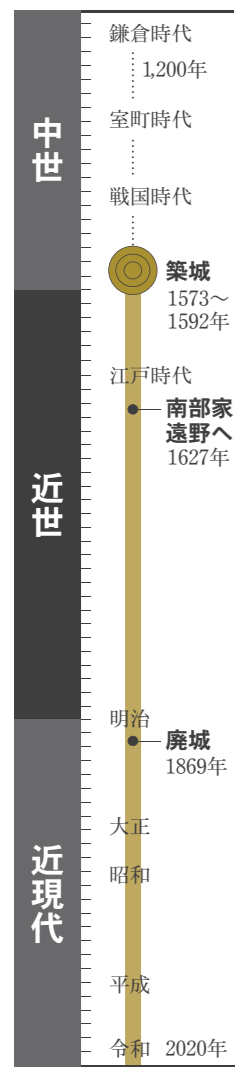
する伊達藩との国境のまちだったから。動きがあれば盛岡に通報する重要な役を持つ拠点だったのです。中世の頃は現在の合同庁舎側に大手門、いわゆる正門があったとも考えられます。過去にも城の調査・研究は行われていますが、堀や土塁、切岸など、まだまだ未知の分野が多くあります。国史跡指定による研究の進展にも期待したいです。

鍋倉城跡を見る

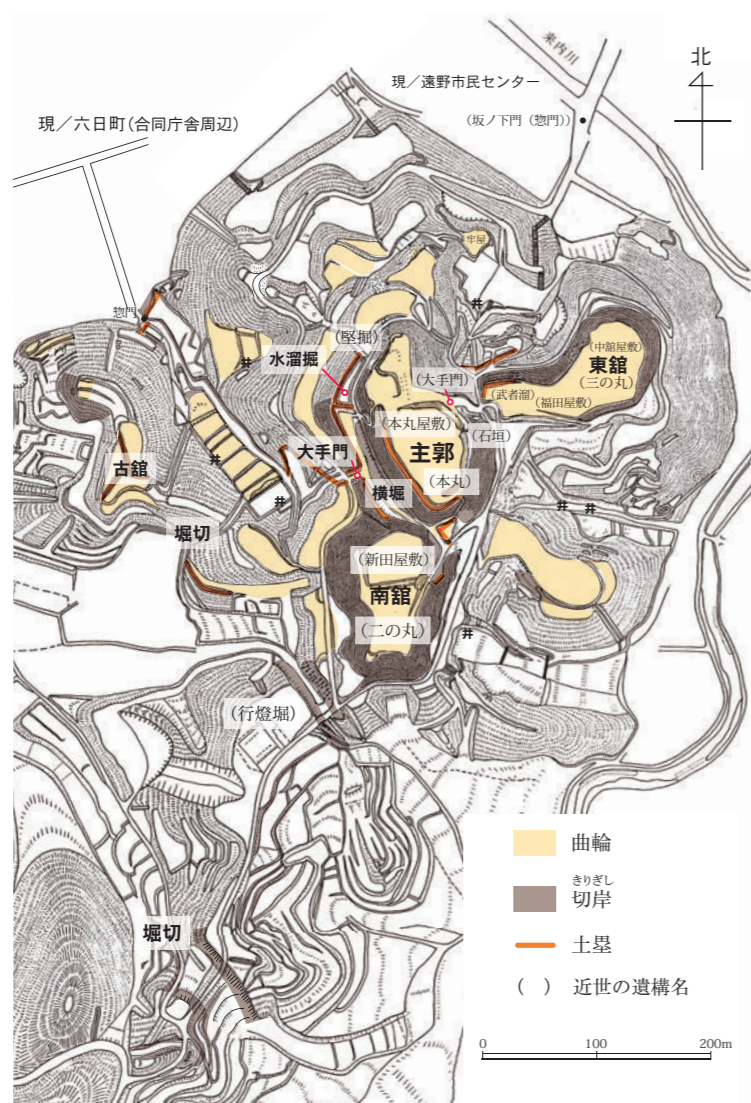
天正年間(1573~1592年)に築かれた鍋倉城。都市公園として憩いの場所となっている城跡には今も、さまざまな遺構(昔の構築物)が残されています。

【歴史略年図】

※主な部分のみ掲載



【下図】中世の鍋倉城 (近世の遺構も含む)



ほんまる そせき 本丸礎石建物跡



平成の調査で発掘された遠野南部氏の本丸屋敷跡

くるわ 曲輪



山頂を切り崩して造られた平地。建物があった場所。(写真_鍋倉上空南から)

どるい 土塁



土を盛って作られた外敵の侵入を防ぐ防壁



文化審答申

「鍋倉城跡」国指定史跡に 430年以上前の山城、

国の文化審議会が昨年12月16日、鍋倉城跡を国史跡に指定するよう文部科学大臣に答申(※調査審議した内容・意見を伝える)しました。430年以上前に築かれた戦国時代末期の山城「鍋倉城跡」を紹介します。

市学芸員に聞く「鍋倉城跡」

鍋倉城は、430年以上前の天正年間(1573~1592年)に戦国大名・阿曾沼広郷が築城したといわれる山城です。阿曾沼氏の失脚後、寛永4(1627)年に南部(八戸)直義が八戸の根城から遠野へ。江戸時代は盛岡に次ぐ政治経済の中心地だった遠野を治める遠野南部家の拠点として、明治2(1869)年まで機能しました。鍋倉城跡のすこいところは、戦国期の遺構が良好な状態で残っていること。戦国期の山城ですので、姫路城のような天守閣や石垣はありませんが、曲輪や敵の侵入を防ぐ土塁、空堀、堀など、当時作られた遺構が各所に残っています。これは、歴史や文化などを大切にする遠野の風土があるからこそではないでしょうか。城下町遠野を象徴する城跡は今後、永久的に保護すべき貴重な史跡となります。遠野、そして日本の宝として大切に守り続けたいと考えています。

【データ】 Data

- ◆指定場所 鍋倉山(標高344m)にある本丸、二の丸、三の丸を含む城郭主要部(10万7900平方m)
- ◆特徴 県内屈指の大規模な中世山城の遺構を良好に残し、ほとんど改変することなく近世城郭化。戦国期から明治期まで存続した稀有な城郭。
- ◆主な遺構 曲輪、土塁、空堀、堅堀など
- ◆国指定史跡数(告示された場合) 市内2件(綾織新田遺跡と鍋倉城跡)、県内33件

市学芸員に聞きました



市文化課 学芸員
黒田篤史さん

「鍋倉城跡パネル展」開催中！ 3月30日(木)まで/遠野市立博物館にて

●入館料/大人310円、高校生以下160円 ●月曜休館 ●国指定史跡の答申記念「御城印」も発売中